



令和6年4月10日

各位

会社名 株式会社 F F R I セキュリティ
代表者名 代表取締役社長 鵜飼 裕司
(コード番号: 3692 東証グロース市場)
問合せ先 常務取締役最高財務責任者 田中 重樹
(TEL. 03-6277-1518)

通期連結業績予想の修正及び、個別業績予想と前期実績値との差異に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和5年11月13日に公表した令和6年3月期（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。また、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、前期実績値と比較して一定以上変動する見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

令和6年3月期通期連結業績予想数値の修正（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,397	261	281	195	24.66
今回修正予想(B)	2,446	496	531	420	53.20
増減額(B-A)	49	235	249	225	
増減率(%)	2.1	90.4	88.7	115.7	
(ご参考)前期実績 (令和5年3月期)	1,952	202	247	187	23.60

修正の理由

我が国のサイバー領域における安全保障の取り組みはこれまでに無い速度で進んでおり、ナショナルセキュリティの市場規模はここ数年で急速に拡大し続けています。当社においては、中長期に渡る需要の増加を取り込むため、人材の確保が至上命題となっており、セキュリティ・エンジニアを始めとする優秀な人材の採用と育成を積極的に進めております。この結果、受注案件の増加によって売上高が計画を上回る見通しとなりました。また費用の面では、国内セキュリティ人材は不足傾向かつ人件費の高騰が続いていたため、採用に掛かるコストを保守的に見積もっていたこともあり、人件費及び採用関連費用が想定よりも減少いたしました。その他、横須賀ナショナルセキュリティR&Dセンターの増床に掛かる費用や、一部プロジェクトの仕様変更等により、利用予定だった外部サービスの利用料やライセンス料が減少しました。さらに、持分法適用会社である株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズも案件の増加により当初計画を上回る見通しとなりました。この結果、売上高及び利益が計画を上回る見通しとなったため、業績予想を修正いたします。

2. 個別決算における前事業年度の実績値と予想値との差

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前事業年度実績値(A)	1,531	180	185	135	17.11
当事業年度予想値(B)	1,980	466	474	377	47.78
増減額(B-A)	449	286	289	242	
増減率(%)	29.3	159.1	155.6	178.3	

差異の理由

売上高につきましては、政府の進める国家安全保障及び経済安全保障に向けた取り組みが加速し、ナショナルセキュリティセクター及びパブリックセクターにおけるセキュリティ・サービスの案件が増加したことによって、前期の売上高を上回る見通しとなりました。また、受注案件の大型化及び長期化により、セキュリティ・エンジニアの稼働が高い水準で推移した結果、利益率が向上し、営業利益及び経常利益、当期純利益のいずれも前期実績を上回る見通しとなりました。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以上